

～地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業～

(重点支援地区) 天童市干布地区(奈良沢・上荻野戸・石倉)〔令和3年度実施地区〕

■ 実施体制

- 実施主体：干布・荒谷地区有害鳥獣被害防止対策協議会
- アドバイザー：江成 はるか 氏（雪国野生動物研究会）
- コーディネーター：村山総合支庁農業振興課
村山総合支庁農業技術普及課

■ 地区のプロフィール

- 地区の世帯数：517世帯
- 主な被害作物：りんご、さくらんぼ、ぶどう
- 主な加害鳥獣：イノシシ、ツキノワグマ、ニホンザル



1. 取り組みのきっかけ

- 市の東側に位置する干布地区では、電気柵の普及が進んでいないことや、耕作放棄地が増加していることから、かねてよりイノシシやサルからの被害が絶えない地区であった。
- さらに近年、当該地区より北の貫津地区や南の山寺地区で電気柵が普及したことで、それらを超えるように干布地区に侵入する獣個体が増加。隣接地区で比較的住宅の多い荒谷地区でも、イノシシが目撃される事例が多発した。
- 以上のような状況下で、地域内で電気柵の有効性が認知されつつある等、地域主体での獣害対策活動の機運が高まったこともあって、今回の取り組みに至った。
- また、コロナ禍で地域内の意識共有が難しいこと、合意形成でつまづく自治体が多いこともあって、今年度は技術的な支援に加えて「合意形成」と「自主性」に焦点をあてた取り組みとした。

2. 取り組みの内容

●獣害対策研修会（9月）

加害獣の生態や電気柵の仕組みなど、獣害対策における基礎的な知識をアドバイザーによる講義で学習した。また、事前アンケートと講義後の質疑応答で地域の課題を洗い出し、今後の取り組みを協議した。

●集落点検（10月）

干布地区の一部の圃場を実習地とし、集落点検を実施した。電気柵の管理状況について指導を受けたほか、参加者各自が獣の出没状況とそれについて考えられる原因を、アドバイザーの助言を受けながら地図に書き込んでいった。点検後は屋内に移動し、各自が気づいたことを大判の地図に書きまとめた。

●今後の取り組みに向けて（2月）←中止

事前アンケートや前回までの研修を基に、地域の獣害対策の目的を検討するこれまでの総括となる研修会を計画していたが、コロナ禍の影響で中止となった。



獣害対策研修会



集落点検

3. 課題と今後の展望

- 第三回研修会が中止となったこともあり、地域の合意形成や獣害対策は未だ不十分といえる状況である。引き続きの支援が必要であるため、第三回研修会の代わりとなる機会を設けたり、地域おこし協力隊を活用したりする等、継続した支援策を検討している。